

おいしさと健康



第102期 報告書

平成18年4月1日 ▶ 平成19年3月31日



江崎グリコ株式会社

おいしさと健康

おいしさの感動を

健康の喜びを

生命の輝きを

Glicoは、

ハート・ヘルス・ライフの

フィールドで

いきいきとした

生活づくりに貢献します。



もくじ

株主の皆様へ……………	3	単独決算の状況……………	11
部門別の状況(連結)……………	4	新製品のご紹介……………	13
業績の推移(連結)……………	6	会社の概要……………	17
主な関係会社……………	6	主な事業所……………	17
株式の状況……………	7	役員……………	18
連結決算の状況……………	8	株主メモ……………	19

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。当社の第102期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度のわが国経済は、企業業績の回復による設備投資の増加や雇用情勢の改善が進み、回復基調を辿りました。しかし、一方では、原油価格高騰の長期化や金利上昇懸念等、先行きに不透明感も漂う状況が続いており、個人消費も全体として伸び悩む状況が続きました。このような市場環境に対応するため、食品関係の競合各社は新製品開発やコスト競争力の強化にしのぎを削り、激しい競争を展開しました。その結果、菓子・冷菓・畜産加工品は前年同期を上回る市況となりましたが、乳製品・食品はいずれも前年同期を下回る市況となりました。

このような状況の中で、当社グループは「グリコグループ行動規範」に基づき、信頼される企業であり続けることを事業展開の基本としながら、主力品の強化、新製品・系列品の発売、自動販売機や職場専用ボックスでの販売等による販売拠点の拡大や各々の流通形態に適合した販売対策を積極的に展開いたしました。

その結果、牛乳・乳製品部門や畜産加工品部門は減収となりましたが、菓子部門・冷菓部門・食品部門は前年比で増収となり、当連結会計年度の売上高は2,697億76百万円となり、前連結会計年度(2,609億91百万円)に比べ3.4%の増収となりました。

一方、利益面につきましては、品種構成の変化や原油高、一部の原料価格の上昇等はありませんでしたが、販売拡大に伴う生産増の効果により売上原価率は前年同期並みとなりました。また、厳しい市場競争に対応するために販売促進費が増加し、広告費も若干増加しましたが、販

売費及び一般管理費全体の対売上高比率は低下いたしました。その結果、経常利益は91億81百万円と前連結会計年度(80億80百万円)に比べ11億1百万円の増益となりました。一方、当連結会計年度は特別損失として固定資産の減損損失を計上いたしました。その結果、当期純利益は41億22百万円となり、前連結会計年度(49億11百万円)に比べ7億88百万円の減益となりました。

なお、配当金につきましては、中間配当金と同じく1株につき5円の普通配当に加え、大正11年2月の創立以来、今年が85周年にあたりますことを記念し、1株につき5円の記念配当をいたしました。食品市場は前年を下回る市況が続いており、当社をとりまく経営環境は益々厳しくなっておりますが、全社を挙げて業績の向上をはかり、株主の皆様のご期待におこたえする所存でございます。

今後とも、株主の皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月



取締役社長

北崎勝久

部門別の状況（連結）

菓子部門

800億99百万円

(前年同期比11.3%の増収)



新製品“極細”を発売した「ポッキーグループ」が大きく売上を伸ばし、“カプリコ”や“クラッツ”も増収に貢献しました。さらに、口中ケアタブレット“BREO”も売上を伸ばしましたが、発売2年目の“メンタルバランスチョコレートGABA”は前年同期を下回りました。また、タイ、上海の海外子会社は前年に引き続き好調に推移いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は800億99百万円となり、前連結会計年度（719億85百万円）に比べ11.3%の増収となりました。

冷菓部門

540億94百万円

(前年同期比6.4%の増収)



新味を発売した“牧場しぼり”が大幅に売上を伸ばし、“セブンティーンアイス”“カロリーコントロールアイス”も順調でした。一方、“ジャイアントコーン”“パピコ”“和ごころ”は前年同期を下回りました。また、冷菓販売子会社の売上は伸長しました。

その結果、当連結会計年度の売上高は540億94百万円となり、前連結会計年度（508億53百万円）に比べ6.4%の増収となりました。

牛乳・乳製品部門

835億68百万円

(前年同期比2.5%の減収)



発酵乳、洋生菓子は“幸せのたっぷりアロエヨーグルト”“とろ〜りクリームonプリン”等が好調で増収となりましたが、牛乳類や“マイルドカフェオーレ”“野菜足りてますか”等の飲料が減収となりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は835億68百万円となり、前連結会計年度（857億21百万円）に比べ2.5%の減収となりました。

食品部門

210億5百万円

(前年同期比0.6%の増収)



主力品の“2段熟カレー”が好調で大幅に売上を伸ばし、発売2年目の“HOT菜中華”も貢献しました。一方、“ZEPPINカレー”や“DONBURI亭”はやや苦戦となりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は210億5百万円となり、前連結会計年度(208億77百万円)に比べ0.6%の増収となりました。

畜産加工品等部門

310億9百万円

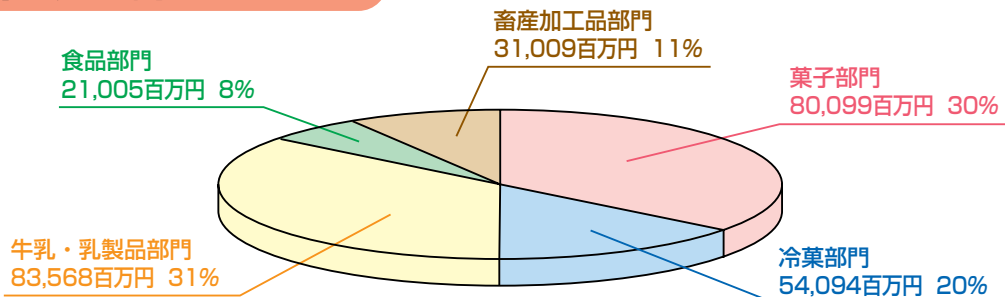
(前年同期比1.7%の減収)



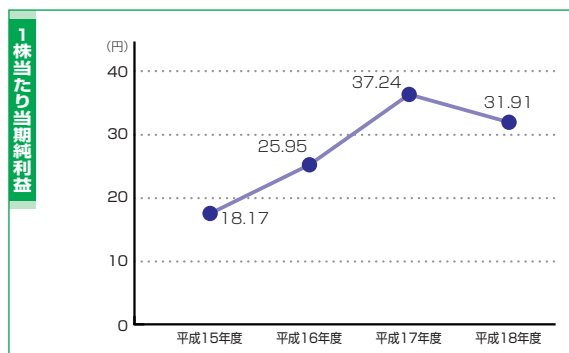
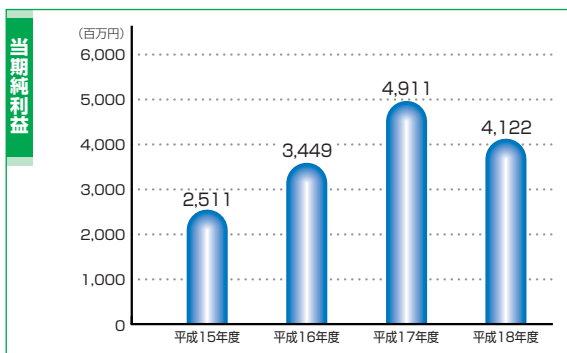
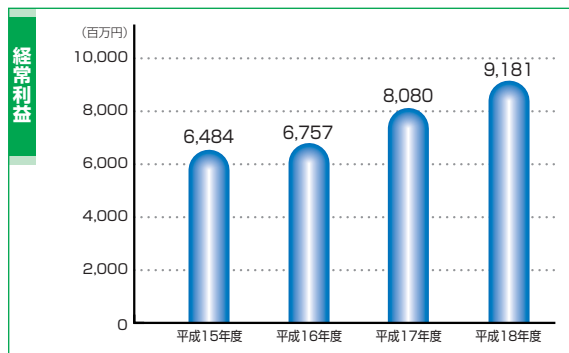
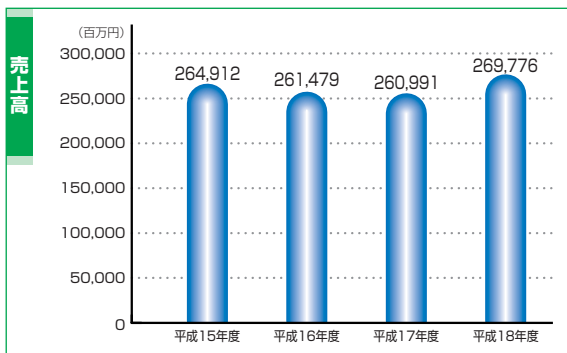
主力品の“パリッと朝食ウインナー”“充実朝食ロースハム”等のハム・ソーセージ類は順調に推移しました。さらに、“具付き麺”シリーズも増収に貢献しました。なお、前連結会計年度まで畜産加工品部門に含めておりましたグリコ那須高原牧場(株)の株式を、当連結会計年度において売却したため、連結の範囲から除外しております。

その結果、当連結会計年度の売上高は310億9百万円となり、前連結会計年度(315億53百万円)に比べ1.7%の減収となりました。

部門別売上高とその割合



業績の推移（連結）



主な関係会社

北海道グリコ株式会社
 仙台グリコ株式会社
 茨城グリコ株式会社
 グリコ千葉アイスクリーム株式会社
 東京グリコ株式会社
 武生グリコ株式会社
 三重グリコ株式会社
 関西グリコ株式会社
 神戸グリコ株式会社

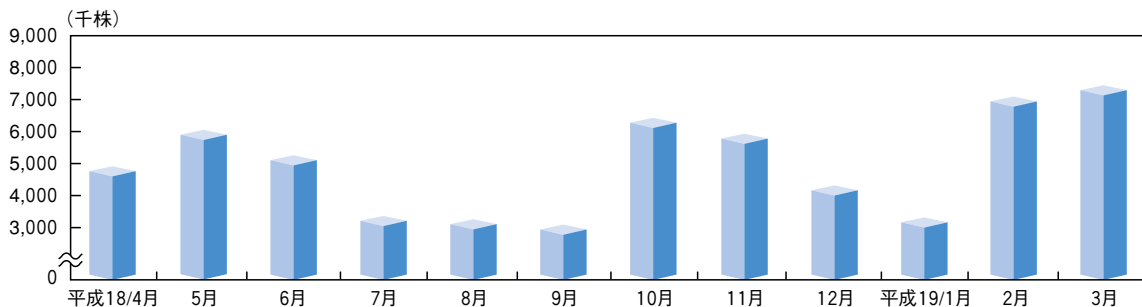
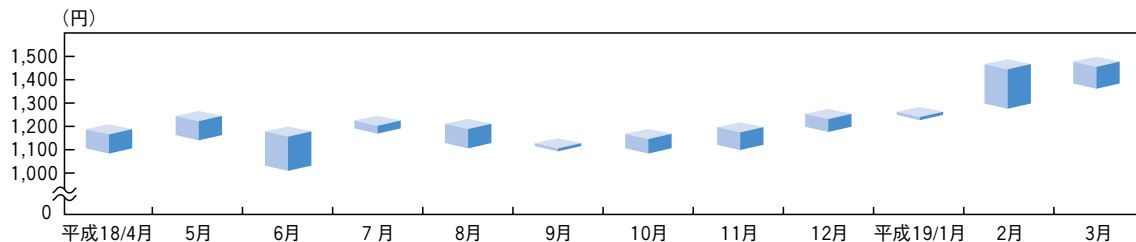
グリコ兵庫アイスクリーム株式会社
 鳥取グリコ株式会社
 九州グリコ株式会社
 江栄情報システム株式会社
 株式会社グリコ物流サービス
 東北フローズン株式会社
 関西フローズン株式会社
 THAI GLICO CO., LTD.
 GENERALE BISCUIT GLICO FRANCE S.A.

上海江崎格力高食品有限公司
 グリコ乳業株式会社
 グリコ栄養食品株式会社
 アイクレオ株式会社

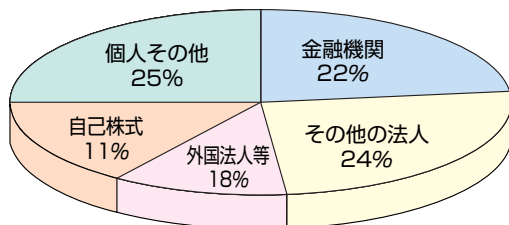
株式の状況

会社が発行する株式の総数 470,000,000株
 発行済株式総数 144,860,138株
 株主数 16,054名

株価および株式売買高の推移



所有者別株式数比率



大株主

氏名又は名称	持株数(千株)
スティーラパートナーズジャパンストラテジックファンド(オフショア)エルピー	20,812
掬泉商事株式会社	8,263
江崎正道	7,240
大同生命保険株式会社	7,000
日清食品株式会社	7,000
佐賀県経済農業協同組合連合会	5,787
日本生命保険相互会社	2,342
三井住友海上火災保険株式会社	2,112
大正製薬株式会社	2,020
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,549

連結決算の状況

連結貸借対照表

(単位:百万円)

年度別 科目	前連結会計年度 (平成18年3月31日)	当連結会計年度 (平成19年3月31日)	年度別 科目	前連結会計年度 (平成18年3月31日)	当連結会計年度 (平成19年3月31日)
	金額	金額		金額	金額
(資産の部)			(負債の部)		
I 流動資産	77,290	77,899	I 流動負債	67,475	65,164
現金及び預金	10,920	15,154	支払手形及び買掛金	28,092	30,708
受取手形及び売掛金	27,586	31,427	短期借入金	11,571	7,358
有価証券	9,338	7,013	未払費用	19,281	20,644
たな卸資産	18,019	16,332	未払法人税等	1,778	901
前渡金	193	169	その他	6,751	5,550
前払費用	162	210	II 固定負債	20,298	18,902
短期貸付金	374	587	長期借入金	35	14
繰延税金資産	2,597	2,636	退職給付引当金	15,371	14,464
その他	8,327	4,621	役員退職慰労引当金	1,072	1,032
貸倒引当金	△228	△254	連結調整勘定	716	—
II 固定資産	135,439	133,772	負ののれん	—	238
(有形固定資産)	69,350	66,084	その他	3,103	3,152
建物及び構築物	24,012	22,509	負債合計	87,774	84,067
機械装置及び運搬具	25,182	24,332	(少数株主持分)		
工具器具備品	3,722	3,532	少数株主持分	997	—
土地	15,053	14,652	(資本の部)		
建設仮勘定	1,378	1,057	I 資本金	7,773	—
(無形固定資産)	2,135	1,557	II 資本剰余金	7,416	—
(投資その他の資産)	63,953	66,129	III 利益剰余金	113,727	—
投資有価証券	51,550	54,432	IV その他有価証券評価差額金	5,599	—
長期貸付金	1,094	909	V 為替換算調整勘定	△359	—
長期前払費用	271	176	VI 自己株式	△10,199	—
繰延税金資産	5,199	4,105	資本合計	123,958	—
その他	7,031	7,572	負債、少数株主持分及び資本合計	212,730	—
貸倒引当金	△1,192	△1,066	(純資産の部)		
資産合計	212,730	211,671	I 株主資本	—	121,285
			資本金	—	7,773
			資本剰余金	—	7,419
			利益剰余金	—	116,463
			自己株式	—	△10,371
			II 評価・換算差額等	—	4,885
			その他有価証券評価差額金	—	5,937
			繰延ヘッジ損益	—	△907
			為替換算調整勘定	—	△145
			III 少数株主持分	—	1,433
			純資産合計	—	127,604
			負債、純資産合計	—	211,671

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	年度別	前連結会計年度 (17.4.1~18.3.31)	当連結会計年度 (18.4.1~19.3.31)
	金額	金額	金額
I 売上高		260,991	269,776
II 売上原価		151,767	156,902
売上総利益		109,224	112,873
III 販売費及び一般管理費		102,236	105,169
営業利益		6,987	7,704
IV 営業外収益		2,559	2,822
(受取利息及び配当金)		(1,025)	(1,223)
(その他)		(1,534)	(1,599)
V 営業外費用		1,467	1,345
(支払利息)		(82)	(120)
(その他)		(1,384)	(1,225)
経常利益		8,080	9,181
VI 特別利益		586	50
(投資有価証券売却益)		434	—
(その他)		151	50
VII 特別損失		88	1,244
(減損損失)		39	887
(その他)		(49)	(356)
税金等調整前当期純利益		(8,577)	(7,987)
法人税、住民税及び事業税		(2,937)	(2,185)
法人税等調整額		510	1,401
少数株主利益		218	277
当期純利益		4,911	4,122

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	前連結会計期間 (17.4.1~18.3.31)	当連結会計期間 (18.4.1~18.3.31)
		金額	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益		8,577	7,987
減価償却費		10,068	9,739
減損損失		39	887
連結調整勘定償却額		△503	—
負ののれん償却額		—	△477
退職給付引当金の増減額		△529	△838
役員退職慰労引当金の増減額		80	△20
役員賞与引当金の増減額		—	93
貸倒引当金の増減額		△23	△101
受取利息及び受取配当金		△1,025	△1,223
支払利息		82	120
為替差損益		△113	△7
有形固定資産除却損		568	500
売上債権の増減額		△115	△3,737
たな卸資産の増減額		△2,616	1,507
仕入債務の増減額		1,394	2,427
役員賞与の支払額		△95	△94
その他		△2,704	1,686
小計		13,083	18,451
法人税等の支払額		△2,171	△2,982
営業活動によるキャッシュ・フロー		10,911	15,469
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出		△520	△398
定期預金の払戻による収入		509	496
有価証券の取得による支出		△200	—
有価証券の売却等による収入		1,501	1,648
投資有価証券の取得による支出		△14,814	△3,843
投資有価証券の売却等による収入		2,698	202
有形固定資産の取得による支出		△6,837	△7,693
有形固定資産の売却による収入		94	313
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入		—	371
貸付けによる支出		△182	△520
貸付金の回収による収入		413	491
利息及び配当金の受取額		1,042	1,220
その他		△201	△220
投資活動によるキャッシュ・フロー		△16,495	△7,930
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金増減額		8,271	△4,232
長期借入金の返済による支出		△220	△36
利息及び配当金の支払額		△1,373	△1,412
少数株主への配当金の支払額		△19	△19
自己株式の取得による支出		△151	△176
その他		3	7
財務活動によるキャッシュ・フロー		6,509	△5,870
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		176	102
V 現金及び現金同等物の増減額		1,102	1,771
VI 現金及び現金同等物の期首残高		19,684	20,786
VII 現金及び現金同等物の期末残高		20,786	22,557

連結決算の状況

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 利 余 本 金	利 利 余 益 金	自 己 株 式	株 主 資 本 計
前連結会計年度末残高	7,773	7,416	113,727	△10,199	118,718
当連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当(注)			△646		△646
剰余金の配当			△646		△646
役員賞与の支給(注)			△94		△94
当期純利益			4,122		4,122
自己株式の取得				△176	△176
自己株式の処分		2		4	7
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)					
当連結会計年度中の変動額合計	—	2	2,735	△171	2,566
当連結会計年度末残高	7,773	7,419	116,463	△10,371	121,285

	評 価・換 算 差 額 等				少 数 株 主 持 分	純 資 産 計
	そ の 他 有 価 値 差 額	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	為 替 換 算 調 整 勘 定	評 価・換 算 差 額 等 合 計		
前連結会計年度末残高	5,599	—	△359	5,239	997	124,955
当連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当(注)						△646
剰余金の配当						△646
役員賞与の支給(注)						△94
当期純利益						4,122
自己株式の取得						△176
自己株式の処分						7
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)	338	△907	214	△354	436	82
当連結会計年度中の変動額合計	338	△907	214	△354	436	2,649
当連結会計年度末残高	5,937	△907	△145	4,885	1,433	127,604

(注) 主として、平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

単独決算の状況

貸借対照表

(単位:百万円)

期別 科目	前期 (平成18年3月31日)	当期 (平成19年3月31日)	期別 科目	前期 (平成18年3月31日)	当期 (平成19年3月31日)
	金額	金額		金額	金額
(資産の部)			(負債の部)		
I 流動資産	51,493	50,374	I 流動負債	59,740	59,254
現金及び預金	8,273	12,152	支払手形	140	261
受取手形	965	997	買掛金	14,551	14,730
売掛金	13,852	15,420	短期借入金	10,000	6,000
有価証券	9,338	7,013	未払金	1,464	1,638
製品	5,823	4,792	未払費用	11,737	11,430
原材料	2,159	2,096	未払法人税等	214	—
その他のたな卸資産	374	555	預り金	18,999	23,744
繰延税金資産	1,755	1,881	その他	2,633	1,449
短期貸付金	1,454	1,747	II 固定負債	9,829	9,072
信託受益権	3,170	1,800	退職給付引当金	7,964	7,242
未収入金	1,783	1,994	役員退職慰労引当金	575	535
その他	2,731	117	預り保証金	1,289	1,294
貸倒引当金	△190	△195	負債合計	69,570	68,327
II 固定資産	112,729	112,490	(資本の部)		
(有価固定資産)	32,187	31,049	I 資本金	7,773	—
建物及び構築物	5,874	5,562	II 資本剰余金	7,416	—
機械装置及び運搬具	12,698	12,003	資本準備金	7,413	—
工具器具備品	2,893	2,734	その他資本剰余金	2	—
土地	10,348	10,298	III 利益剰余金	84,214	—
建設仮勘定	371	450	利益準備金	1,943	—
(無形固定資産)	1,302	995	任意積立金	79,077	—
(投資その他の資産)	79,239	80,445	当期末処分利益	3,193	—
投資有価証券	50,834	53,767	(うち当期純利益)	(2,545)	(—)
関係会社株式	11,232	10,881	IV その他有価証券評価差額金	5,446	—
出資金	10	10	V 自己株式	△10,199	—
関係会社出資金	757	1,107	資本合計	94,652	—
長期貸付金	9,725	9,603	負債及び資本合計	164,222	—
繰延税金資産	2,131	1,084	(純資産の部)		
その他	5,733	5,960	I 株主資本	—	89,624
貸倒引当金	△1,186	△1,969	資本金	—	7,773
資産合計	164,222	162,864	資本剰余金	—	7,419
			資本準備金	—	7,413
			その他資本剰余金	—	5
			利益剰余金	—	84,802
			利益準備金	—	1,943
			その他利益剰余金	—	82,858
			任意積立金	—	80,028
			繰越利益剰余金	—	2,830
			自己株式	—	△10,371
			II 評価・換算差額等	—	4,913
			その他有価証券評価差額金	—	5,820
			繰延ヘッジ損益	—	△907
			純資産合計	—	94,537
			負債、純資産合計	—	162,864

単独決算の状況

損益計算書

(単位:百万円)

科目	年度別	前期	当期
		(17.4.1~18.3.31)	(18.4.1~19.3.31)
		金額	金額
I 売上高		127,494	134,053
II 売上原価		66,146	70,249
売上総利益		61,347	63,804
III 販売費及び一般管理費		59,725	61,474
営業利益		1,622	2,330
IV 営業外収益		3,271	3,746
(受取利息及び配当金)		(2,333)	(2,574)
(その他)		(938)	(1,172)
V 営業外費用		958	997
(支払利息)		(92)	(182)
(その他)		(865)	(814)
経常利益		3,935	5,079
VI 特別利益		586	21
(投資有価証券売却益)		(434)	(—)
(その他)		(151)	(21)
VII 特別損失		759	1,640
(関係会社貸倒引当金繰入額)		(—)	(989)
(減損損失)		(21)	(—)
(その他)		(738)	(651)
税引前当期純利益		3,761	3,460
法人税、住民税及び事業税		591	249
法人税等調整額		623	1,286
当期純利益		2,545	1,924
前期繰越利益		1,294	—
中間配当額		646	—
当期末処分利益		3,193	—

株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日) (単位:百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
	資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 任意積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
前期末残高	7,773	7,413	2	7,416	1,943	79,077	3,193	84,214
当事業年度中の変動額								—
特別償却準備金の積立(注)						0	△0	—
特別償却準備金の取崩(注)						△32	32	—
特別償却準備金の取崩						△16	16	—
別途積立金の繰入(注)						1,000	△1,000	—
剰余金の配当(注)							△646	△646
剰余金の配当							△646	△646
役員賞与の支給(注)							△45	△45
当期純利益							1,924	1,924
自己株式の取得								—
自己株式の処分			2	2				—
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額(純額)								—
当事業年度中の変動額合計	—	—	2	2	—	950	△363	587
当期末残高	7,773	7,413	5	7,419	1,943	80,028	2,830	84,802

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
前期末残高	△10,199	89,205	5,446	—	5,446	94,652
当事業年度中の変動額						—
特別償却準備金の積立(注)		—				—
特別償却準備金の取崩(注)		—				—
特別償却準備金の取崩		—				—
別途積立金繰入(注)		—				—
剰余金の配当(注)		△646				△646
剰余金の配当		△646				△646
役員賞与の支給(注)		△45				△45
当期純利益		1,924				1,924
自己株式の取得	△176	△176				△176
自己株式の処分	4	7				7
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額(純額)			373	△907	△533	△533
当事業年度中の変動額合計	△171	418	373	△907	△533	△115
当期末残高	△10,371	89,624	5,820	△907	4,913	94,537

(注) 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

菓子

プリッツ史上もっとも堅い!「堅焼プリッツ」新発売。

「堅焼プリッツ<塩バター>」

「堅焼プリッツ<荒挽きペッパー>」

「もっと男性にもプリッツを楽しんでいただきたい」という思いから、ハードな噛みごたえとあっさりとした味わいの『堅焼プリッツ』を新発売しました。プリッツブランドのユーザー層拡大と市場の活性化を狙います。



塩バター



荒挽きペッパー

見た目も楽しい、驚きの新カプリコ登場!

「ジャイアントカプリコ<いちご><チョコボンバー>」

「ジャイアントレインボーカプリコ」

発売から根強い支持のいちご味、バニラとチョコの組み合わせのチョコボンバーに加え、カラフルな粒チョコをトッピングした見た目も楽しい『ジャイアントレインボーカプリコ』が新登場。この春「でっかいサプライズ」を子供たちに届けます。



いちご



チョコボンバー



ジャイアントレインボーカプリコ

冷菓

冷菓事業本部

贅沢仕立ての濃密なチョコアイス。

「Def<ブラック><ホワイト>」

『Def』はグリコ独自の技術により、アイス部分の原料の中に従来以上のチョコを使用した少量でも満足度の高いチョコアイスです。「おいしいものを少しだけ」という大人の女性のニーズに答え、味わいは贅沢なのにお求め安い価格にしました。



ブラック



ホワイト

ゼリー入り氷だから、やわらかな新食感が楽しめる。

「ぷにぼり<クールライチ>」

食べやすさと食感にこだわった、ゼリー入りのかちわり氷『ぷにぼり』。ライチのすっきりした甘みと氷ならではの冷たいのどごしを、シーンを選ばずに楽しむことができます。これからの季節にぜひお試しください。



食品

食品事業本部

お子さまのすこやかな 成長に配慮したタブレット。

「幼児はじめてケア
＜ポスカタブレット＞＜鉄プラスタタブレット＞」

『幼児はじめてケア』シリーズは、グリコオリジナルの唾液にとけやすいカルシウム『POs-Ca（ポスカ）』や幼児に不足しがちな鉄分を配合した、1歳6カ月頃からの幼児向けのタブレットです。お子さまの健康を気遣うお母様の気持ちになって開発した商品です。



ポスカタブレット



鉄プラスタタブレット

牛乳・乳製品

グリコ乳業株式会社

変わらない味 進化するおいしさ。

「カフェオーレ」

1979年の発売以来、みなさまに親しまれてきたカフェオーレがこのたびリニューアルしました。味わいはそのままに、コーヒー豆の使用量を従来品より20%増量し、ドリップコーヒーの本来の香りとコクをアップしました。



牛乳・乳製品

グリコ乳業株式会社

とろ〜りからまる至福の味わい。

「とろ〜りクリームonプリン」

ご好評の「とろ〜りクリームonプリン」がリニューアル。プリンに生乳を加えることでいちだんとまろやかに仕上げました。ご家族で楽しめる3個パックは鮮やかなブルーのパッケージが目印です。



畜産加工品等

グリコ栄養食品株式会社

和風ドレッシングに合う「ホワイトロースハム」

あらびき胡椒がピリッとおいしい「ペッパーポーク」

サラダに使いやすい小さい直径の薄切りハムを1回分ごとに2つに分けて、「ふんわり」1枚ずつはがしやすいガスパックにしました。



ホワイトロースハム

ペッパーポーク

会社の概要

平成19年3月31日現在

商号 江崎グリコ株式会社
創立年月日 大正11年2月11日
資本金 7,773,681,654円
営業品目 菓子・食品の製造および売買。飲食店の経営。
従業員数 1,186名
本社所在地 〒555-8502 大阪市西淀川区歌島四丁目6番5号
ホームページ <http://www.glico.co.jp>



〈ホームページ〉

主な事業所

本社

〒555-8502
大阪市西淀川区歌島四丁目6番5号
電話 (06) 6477-8352

中部統括支店

〒461-0025
名古屋市東区徳川一丁目901番地
電話 (052) 932-0071

北海道統括支店

〒003-0807
札幌市白石区菊水7条二丁目7番1号
電話 (011) 812-6311

近畿統括支店

〒555-8502
大阪市西淀川区歌島四丁目6番5号
電話 (06) 6477-8470

東北統括支店

〒981-0912
仙台市青葉区堤町一丁目1番2号
電話 (022) 717-2821

中・四国統括支店

〒733-0003
広島市西区三篠町三丁目6番28号
電話 (082) 230-4111

首都圏統括支店

〒108-0023
東京都港区芝浦四丁目16番23号
電話 (03) 3798-0717

九州統括支店

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東三丁目13番28号
電話 (092) 474-0331

役員

平成19年3月31日現在

代表取締役社長	江崎 勝久	
常務取締役	大川畑 勝也	(品質総括責任者、品質保証部担当、危機管理委員長、コンプライアンス委員長)
常務取締役	原 光伴	(経理部長、関連事業 担当)
常務取締役	吉田 安矩	(SCM本部長兼資材部長兼情報システム部長)
常務取締役	深川 修二	(広報IR部長兼オフィスグロコ推進部長、お客様相談室・江崎記念館・グロコピア神戸 担当)
常務取締役	中川 宗和	(菓子事業本部長兼食品事業本部長 兼 健康食品部長、広告部・マーケティング企画室 担当)
取締役	江崎 正道	
取締役	玄 洋二郎	
取締役	門奈 俊夫	(営業統括、広域マーケティング部長、渉外部 担当、東京駐在)
取締役	金子 春義	(環境管理責任者、生産部門統括、製造部長兼技術開発部長)
取締役	森井 健一	(冷菓事業本部長)
取締役	芝池 正明	(経営企画室長)
取締役	村上 泰民	(総務人事部長)
取締役	栗木 隆	(研究部門統括、研究本部長兼生物化学研究所長兼新素材営業グループ長)
監査役	山崎 将史	(常勤)
監査役	平野 和男	
監査役	下地 民男	
監査役	玉井 英二	
監査役	太智 幸夫	

(注) 監査役のうち、平野和男、下地民男及び玉井英二の3氏は、社外監査役であります。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社証券代行部

郵便の場合

〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先

住所変更等用紙のご請求 …………… ☎ 0120-175-417
買増請求、その他のご照会 …………… ☎ 0120-176-417

インターネット ホームページURL

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

同取次所	住友信託銀行株式会社全国各支店
公告の方法	当社のホームページに掲載する。〈 http://www.glico.co.jp 〉
上場証券取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所

株主様ご優待

1,000株以上ご所有の株主様に、つぎの要領で、
当社製品の詰め合わせを贈呈させていただいております。

- 贈呈時期 6月末頃と12月中旬頃にお送りいたします。
- 贈呈基準 3月31日現在および9月30日現在の株主様へ
1,000～1,999株 ……………市価 約 800円相当額製品
2,000～9,999株 ……………市価 約1,600円相当額製品
10,000株以上 ……………市価 約3,000円相当額製品



※写真は、詰め合わせ商品例

原点はいつも「グリコ」。

1921年、創業者の江崎利一が決して豊かとは言えなかった当時の食料事情において、子供たちの栄養状態の改善の一助になればと、牡蠣の煮汁に含まれているグリコーゲンを活用した初めての栄養菓子「グリコ」を創製いたしました。

この赤い箱の「グリコ」には、新発想のローラーによるハートのカタチ、ゴールインする人の姿をあしらった**独特のデザイン**や“一粒300メートル”の有名な**キャッチフレーズ**、「食べることで遊ぶことは子供の二大天職」という発想から生まれた**豆玩具**など、品質の追求のみに留まらず、メインユーザーである子供たちに最大限楽しんでもらえるように、**独創的なアイデア**をふんだんに盛り込んだ、**創意工夫**に溢れるものでした。

以来、わが社はその製品づくりに対する精神のもと、アーモンドチョコやポッキーチョコなど数々のロングセラー商品を開発してまいりました。

その根底には原点である「グリコ」から変わるこ
とない一貫した商品づくりに対する思いが受け継が
れているのです。

